

論壇

どこまで頼るか判断鍵

アマゾン、グーグル、アップルなどの情報大手企業が、次々に家庭用のAI型スピーカーを発売している。日本ではまだ発売されていない機種が多いようだが、米国では一般家庭で急速に普及している。

数カ月前に米国に行った時、友人の高齢者夫婦の家にも置いてあるのを見た。2人とも90歳を超える年齢の夫婦だが、その家にもアマゾン社が発売するAIスピーカーが置いてあったのだ。「アレクサ」と呼びかけると、スピーカー型ロボットが起動し始める。「ア

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

レクサ、明日の天気は」と呼びかけると、それに対する答えが返ってくる。スピーカーロボットはインターネットにつながっているのだから、色々な使い方が可能だ。

たとえば「モーツアルトの音楽をかけて」とか、「ビートルズのイエスタデイが聴きたい」と呼び

ロボット時代の健康的知能

かければ、その音楽がスピーカーから流れる。機種の設定によっては「寝室の電気をつけて」とか、「冷房を強めて」という指示

に反応することも可能だろう。この機械が高齢者の家にあつた

と言ったが、当然、価格はそれほど高くない。2万円か3万円で購

入できるそうだ。子供たちがプレゼントしたのかもしれない。操作も簡単で、話しかけるだけでよい。足が不自由で視力が弱っている高齢者でも全く問題がない。米国の

学校教育変える必要も

家庭に急速に普及している理由がよく分かる。何でも気になることがあり語りかければ、それに反応

が、どこまでをロボットに頼り、どこからは人間が自分でやるのかの判断が求められる。

これは、例えば学校の教育などにも関わってくる。例えば歴史の

年号などどうだろうか。私が学生の頃は、受験勉強ということもあり、歴史の年号を暗記するのに膨大な時間を使った。でも今なら、「アレクサ」と呼びかけるだけで年

号はすぐに教えてもらえる。それでも膨大な時間をかけて年号を覚える必要があるのだろうか。歴史の勉強のやり方を変える必要があるだろうし、試験の内容も変えなくてははいけないのかもしれない。

AI、ロボットなどが話題になることが多いが、こうした形でロボットは私たちの生活の中にとんと入り込んでくる。それによ

って便利になることは間違いない。歴史だけではない。英語でも、

こちらから日本語で話しかければ、すぐに英語に翻訳するというようなことは、ロボットには簡単にできるようになるだろう。英語を学ぶことが必要であることは確かとしても、そうした便利な機器を最大限に活用することを前提とした英語教育に変えていかなくてはならない。

機械にあまり頼ると人間が本来持っている能力さえ弱くなることもある。だから機械や乗り物がある現代社会でも、肉体を鍛える体育は重要である。健康的な体を作るという意味もある。では、ロボット時代の健康的な知能とは何だろうか。なかなか難しい問題だ。少なくとも歴史の年号を丸覚えした知能ではないことは確かだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。